

令和2年度第2回狭山市立博物館協議会会議録

開催日時 令和3年3月29日（月）午後1時30分から午後3時00まで
開催場所 狭山市立博物館研修講義室
出席者 高橋光昭会長、濱田明美副会長、齊藤孝史委員、川口彰久委員、
細井弘子委員、宮本剛義委員、小峰孝男委員、千田道代委員
欠席者 浅沼俊英委員、鈴木眞澄委員
事務局 向野教育長、金子生涯学習部長、奥富社会教育課長、原主事
志水博物館長、入佐博物館副館長、アクティオ㈱小林担当、
アクティオ㈱小澤担当
傍聴者 0名

議 題

1 令和2年度事業報告について

会議資料に基づき、令和2年度に実施した企画展・主催事業について博物館長より説明し、
質疑応答後、承認された。

質疑等

会 長：狭山ふるさと検定で博士に認定された方々の今後の活用について何か考えているか。
常設展示の解説などに取り組む予定はあるか。

館 長：常設展示のガイドをやってもらうことや、川越市のような観光ガイドとして市内の史
跡を解説してもらうような仕組みを考えていきたいと思っている。

2 令和3年度事業計画について

会議資料に基づき、令和3年度に予定している企画展・主催事業について博物館長より説
明し、質疑応答後、承認された。

質疑等

委 員：冬の企画展は狭山茶に関する内容で考えているとのことだが、入間市博物館もお茶に
関して力を入れている。こちらも狭山市の特性を捉えた資料を揃える目的で社会教育
課と共催の形をとって狭山市なりの切り口で展示会が出来ることを期待する。

館 長：狭山茶の展示会は社会教育課と共催したいと考えている。

委 員：今年度はコロナ禍の影響もあり、中止となった企画もあり残念であったが、次年度も

魅力的な事業計画をたくさん考えてくれているので、是非実現できることを願っている。

3 その他

会議資料に基づき、今後の企画展案について博物館長より説明し、意見を聴取した。

質疑等

会 長：個人的な考えであるが、6番「狭山の名所巡り展～池原昭治作品から見る狭山の風景～」と8番「童絵作家・池原昭治展～残しておきたい狭山の文化財～」の2つに関しては、どちらかを選ぶというよりは、どちらも合わせて開催できるのではないかと思う。また、現在新しい狭山の郷土かるたを制作しているが、昭和40年代に制作した昔の郷土かるたと比較して展示するのも面白いと思う。

副会長：現在博物館ボランティア活動の軒研究会に所属している。市内の神社や仏閣には、企画展として特集できそうな特徴はあるか。

委 員：昔の構造を残しているのは本殿だと思うが、市内では本殿が屋内に入っているものが多いので、一般に中に入って見る事は難しい神社が多いと思う。八幡神社は立派な作りで、一般でも見ることは出来る。

副会長：そういったものはお願いすれば見られるものか。

委 員：宮司が在住していない場合は、総代に相談されればと思うが、小さな施設が多いので、大人数で見ることは出来ないと思う。

委 員：収蔵庫に軒の木組み模型があり、そこからを広げて企画展が出来ないか考えている。

委 員：15番「リアル妖怪展～怖～い狭山の伝承・民話～」とあるが、市民大学では狭山の民話語り部養成講座というものがあるので、そういうところで勉強している方々を活用する方法もあると思う。

会 長：語り部に語ってもらうためには、新たに物語を創作する必要もあると思う。合わせて検討して頂きたい。

委 員：11番「ハイパークと入間川町—『星祭りの町』の狭山の戦後—」について、とても興味がある。今回の入間川町の展示では津村節子について紹介されているか？

館 長：スペースは限られているが紹介している。

委 員：津村節子さんのご親戚が入間川町にあり、戦中の疎開先としてこちらに来た。

委 員：狭山とも深いつながりがあるのではないかと思う。

委 員：これら企画案の一覧であるが、実現可能な度合いを星などの記号で示して頂けるとありがたい。

館長：まさにラフ案の段階であるので、今後精査して順位をつけるなど考えていきたいと思う。

会長：10番「日本画家・鈴木至夫（のりお）展～狭山十景～」について、以前博物館で同氏の展示を開催したことがあったが、さらにその後鈴木至夫氏から持ち込みの企画があった際には、お断りした経緯があった。寄贈品もあるので是非積極的に取り組んで頂きたいと思う。

館長：経緯を含めて検討していきたい。

委員：12番「博物館のシゴト展—「学芸員」って何だ?!—」は、他では見た事がない企画であり、興味がある。学芸員資格を勉強した中で、仕事の大変さを感じた。害虫・防虫対策など、細かなところの学芸員の仕事の大変さを伝えてほしいと思う。

館長：企画展として長期間の展示でなくても、何かスペースを設けて展示出来ないかもあわせて考えていきたいと思う。

委員：資料それぞれの梱包の仕方など、裏側を見るというものを何かの企画展と抱き合わせやイベント的に開催することも可能だと思う。